

先週の説教要旨

『主の日を準備する者』井上隆晶牧師
マラキ 3 : 19~24、ルカ 1 : 5~20

❶【律法を守ることと信仰とは別であること】クリスマス物語に最初に登場するのは、洗礼者ヨハネの両親である祭司ザカリアとその妻エリサベト夫婦です。彼らは神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころのない信仰者でした。しかし二人には子供がなく、二人とも既に歳をとっていました。ザカリアが神殿の聖所で香を炊いているとき大天使ガブリエルが現れ、子供が与えられることを告げられますが、ザカリアはそれを信じられず、口が利けなくなります。いくら正しく、非のうちどころのない人でも、神の業を信じることはできませんでした。これは律法の限界というものを見せているのです。律法を守ることと、信仰とは別なのです。この世の中には正しい生活をする人が大勢いますが、だからといって皆がキリストや神を信じているかというところではありません。信じるとは人間の力を超えたことなのです。ザカリアが口を利けなくなったのは、神の業に対して人間は口出しすることも、手出しすることも出来ないということを教えています。

❷【準備をすることの大切さ】洗礼者ヨハネはイエス様が現れる前に、準備の出来た民を用意する者として神から遣わされました。旧約聖書のマラキ書で預言され、母親の胎内にいる時から聖霊に満たされ、使命を受けて生まれてきた人物です。私たちは主の日が来る前に、準備をしなければならないのです。これが待降節の意味です。洗礼者ヨハネが伝えた準備とは、悔い改めでした。彼はこう説教しました。「悔い改めにふさわしい実を結べ。我々の父はアブラハムなどと

いう考えを起こすな。言っておくが、神はこんな石ころからでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。」(ルカ 3 : 8~9) ひとことと言うなら、自分は特別だと思ふな。悔い改めにふさわしい実を結べ、ということです。

❸【実を結ばないクリスチャン】ヨハネの福音者にこう書かれていました。「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっていないが、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。」(ヨハネ 15 : 1~2) イエス様はまことのぶどうの木であり、父なる神は農夫です。イエス様につながるとは洗礼を受け、教会に来て礼拝をし、聖餐に与ることです。イエス様に「つながっていないながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる」とあります。ここにはっきりと、つながることが目的ではなく、実を結ぶことが信仰生活の目的であると書かれています。洗礼を受け、礼拝に来るのは実を結ぶための手段です。洗礼を受け、礼拝をしているのに実を結ばないのはなぜでしょう。それは「わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。」(4、5) とあるように、実を結ぶためには、私とキリストの両者の意志の協力が働きが必要なのに、それが一方的になっているからです。

❹【実を結ぶために必要なこと】信仰生活をしていても実を結ばない人というのは、ちっとも変わらない人ということです。そのような人は「自分は変わらないけれども良い」と思っているのです。だから変わらないし、求めないのです。まず「変わりたい」という意志を持ち、キリストにそれを願い続けなければなりません。病気でもアルコール依存症で

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957 年 12 月 1 日 教会設立 2001 年 12 月 2 日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

E メールアドレス : 3533osgm@jcom.zaq.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上 隆 晶

2025年12月7日 No.1849



《エル・グレコ 受胎告知》

都島教会の 2025 年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなしい。」(詩編 127 : 1)

2025 年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 28 名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 信徒の交わりを大切にします。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。